

● 社会福祉法人α Version 9.203

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista・7 搭載機へのインストールは不可となっています。

◆ 登録・入力

➢ 仕訳入力

- ・通常入力で、[F4 入力設定] の伝票番号が“なし”になっている場合、出納帳入力で日付欄からの Enter キーで、伝票番号にカーソルが止まらないように対応しました。
- ・出納帳入力でも BackTab (Shift+Tab) が機能するように対応しました。
- ・出納帳入力・伝票入力の摘要欄で、F2 を押したときに、先頭文字にカーソルがセットされるように、F2 を“前項目”から“先頭文字”に変更しました。
- ・仕訳入力で同一日付に複数仕訳を入力し、[F8 仕訳検索] の表示順を“日付順”に変更し検索を行い、検索画面の [F5 印刷] を押し出力すると、仕訳番号が順不動に出力されていたり、出力されない仕訳があったのを修正しました。
- ・仕訳入力で [Ins 仕訳挿入] で仕訳を挿入し、[F8 仕訳検索] で検索を行い、検索画面の [F5 印刷] を押し出力すると、出力されない仕訳があったり、途中から同じ仕訳が何行も表示していたのを修正しました。
※表示順は“番号順”、“日付順”どちらでも起きていました。

◆ その他の改良、修正を行いました。

※詳細は、次ページからの“社会福祉法人 d b (VERSION:9.203) の変更点”“200520 社会福祉法人 d b 補足資料”を参照してください。

📢 注意

- 他のICSシステムとマスターのやり取りを行われる場合は、他のICSシステム側も当改正対応プログラムのインストールを行い、バージョンを統一してください。

社会福祉法人 d b (VERSION:9.203) の変更点

改 良

I. 登録・入力

1) 仕訳入力

- ・通常入力で、[F4 入力設定] の伝票番号が“なし”になっている場合、出納帳入力で日付欄からの Enter キーで、伝票番号にカーソルが止まらないように対応しました。
- ・出納帳入力でも BackTab (Shift+Tab) が機能するように対応しました。
- ・出納帳入力・伝票入力の摘要欄で、F2 を押したときに、先頭文字にカーソルがセットされるように、F2 を“前項目”から“先頭文字”に変更しました。

2) 科目設定・残高登録

- ・「科目残高登録」「枝番残高登録」で、借方・貸方金額に残高を入力して Tab キーを押したときに、金額が保存されるように改良しました。

II. 表形式

1) 表形式振替伝票データ取込

- ・下記の伝票種別を「振替伝票」として取り込む機能を追加しました。

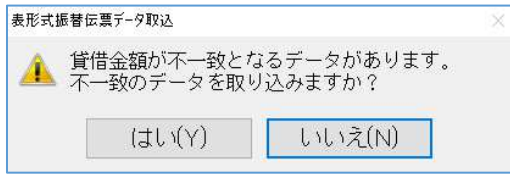
<input checked="" type="checkbox"/> 伝票種別を「振替伝票」として取り込む
<input checked="" type="checkbox"/> 伝票番号欄が未入力または*のデータに対して自動付番する
付番開始番号 <input type="text" value="4"/>

●操作について

- ・「伝票種別を「振替伝票」として取り込む」にチェックを付けた場合、データ取込後『仕訳入力』業務の [F4 入力設定] から伝票形式入力タイプを表示させた場合に“振”が表示され、[F8 仕訳検索] の伝票種別で「振替伝票」にチェックを付けた場合の検索結果にあがるようになります。
- ・「伝票番号が未入力または*のデータに対して自動付番する」にチェックを付けた場合、取り込んだ CSV の伝票番号欄が“未入力”または“*”のデータに対して、付番開始番号にセットされた番号から伝票ごとにカウントアップして付番します。
- ・「付番開始番号」は、最大 7 桁まで入力可能です (0~9999999)。
財務マスターに入力されている全ての仕訳から一番大きい伝票番号に“+ 1”した番号を表示します。
データ取込終了時は、次に付番する伝票番号を付番開始番号に表示します。
- ・付番する番号が 9999999 を超えた場合、伝票番号は空白で取り込みます。
9999999 を超える自動付番はできません。
財務マスターに 9999999 のデータが存在すると、付番開始番号欄は空白になり、付番開始番号欄の下に下記メッセージを表示します。

<input checked="" type="checkbox"/> 伝票種別を「振替伝票」として取り込む
<input checked="" type="checkbox"/> 伝票番号欄が未入力または*のデータに対して自動付番する
付番開始番号 <input type="text"/>
最大伝票番号9999999のデータが存在します。9999999を超える番号は入力できません。

- ・上記例の場合、行番号 6～8、9～10、11～12、13、14、15 で伝票が分かれます。
- ・1 伝票 100 行を超える場合も、次伝票に継続してデータ取込を行います。
- ・データ取込実行時に「貸借金額が不一致」のデータが存在した場合、下記の確認メッセージを表示します。



- ・「はい」を選択した場合は、貸借金額不一致の伝票も取り込みます。
- ・「いいえ」を選択した場合は、貸借金額が不一致の伝票は取り込まず、エラーリストに出力します。

◆データ取込実行時に「日付エラー」のデータが存在した場合、下記のように扱います。

日付	伝票番号	借方金額	借方コード	借方名称	貸方コード	貸方名称	貸方金額	取込結果
4.31		100,000	101	現金	511	売上高1	50,000	日付エラー
4.1					511	売上高1	30,000	貸借エラー
4.1					511	売上高1	20,000	貸借エラー

- ・1 行目と 2 行目以降で日付が異なるため、2 つのグループに分けて取込のチェックを行います。上記 3 行をひとつのグループとして判断することができないため、2 行目以降は貸借エラーとなります。

◆データ取込実行時に「科目未登録エラー」のデータが存在した場合、下記のように扱います。

行番号	区切りの要因	伝票番号 (付番開始番号 = 101 とした場合)
6～8	行番号 8 に [*] が入力されている。	101
9～10	次行 (行番号 11) に伝票番号が入力されている。	102
11～12	行番号 11～12 に同一の伝票番号が入力されている。	1
13	行番号 13 に [*] が入力されている。	103
14	次行 (行番号 15) で日付が異なる。	104
15	行番号 15 の日付が異なる。	105

日付	伝票番号	借方金額	借方コード	借方名称	貸方コード	貸方名称	貸方金額	取込結果
4.1		100,000	101	現金	511	売上高1	50,000	取り込まない
4.1					599		30,000	科目未登録エラー
4.1					511	売上高1	20,000	取り込まない

- ・3 行とも同じ日付なので、1 つのグループとして取込のチェックを行います。上記 3 行で伝票として成立しないため、すべて取り込まないようにしています。

改良（社会福祉法人 d b）

I. 決算

1) 附属明細書

- ①「事業区分間及び拠点区分間繰入金明細書」
- ②「事業区分間及び拠点区分間貸付金（借入金）明細書」
 - ・「事業区分間及び拠点区分間繰入金明細書」、及び「事業区分間及び拠点区分間貸付金（借入金）明細書」処理画面において、財務仕訳データの取り込みに対応しました。

※財務仕訳データの取り込みは、「平成 30 年改正」コンバージョン済みで、かつ部門登録があるマスターのみ対応しています。

「平成 30 年改正」コンバージョンは、導入・更新「財務マスターコンバージョン d b」で行ってください。

※詳細は後述「200520 社会福祉法人 d b 補足資料」を参照してください。

2) 内訳表

[F12 取込 CSV 設定]

- ・財務諸表等電子開示システムの財務諸表等入力シート（2020 年度版 Ver5.00）の C S V 出力に関しては、プログラムの改良はありません。

財務諸表等入力シート（2020 年度版 Ver5.00）をダウンロードしてご利用ください。

尚、Ver5.00 の変更点の下記内容に該当する場合は [F6 項目登録] で設定をする必要があります。

https://www.int.wam.go.jp/sec/content/files/zaihyou/zaihyou_syschange_202003.pdf

資金収支計算書の小区分に 2 つの科目が追加されました。

事業活動による収支／就労支援事業支出／就労支援事業販売原価支出の下に以下の子科目が追加されます。このため、これまで子科目であって「就労支援事業販売原価支出」は親科目となります。

- 就労支援事業製造原価支出
- 就労支援事業仕入支出

[F6 項目登録]

- ・共通タブの「就労支援事業の年間売上高が 5,000 万円以下時の内容で出力する」にチェックを付けます。

- 空白列を出力しない
- 全ての科目を出力する
- 残高が 0 の列を出力しない
- 就労支援事業の年間売上高が 5,000 万円以下時の内容で出力する

2) 科目設定・残高登録

- ・下記条件のときに合計名称一覧を出力すると、科目が表示順に出力されていなかったのを修正しました。

◆条件

- ・オプションの「不使用科目を印刷する」のチェックを外す。
- ・科目名称変更の使用欄の小分類は○、かつそれに属する明細科目をすべて×にする。
- ・出力時の「明細科目を出力しますか？」のメッセージで「はい」を選択する。

3) 残高問い合わせ

- ・諸口をはさんで有価証券売却仕訳を入力したときに、日指定で[F11 発生残高]をみると対価金額の5%分が金額に足しこまれていたのを修正しました。
- ・次の手順を行うと動作停止していたのを修正しました。

- ①仕訳入力から、残高問い合わせに移行し、税区分を既定以外に変更
- ②仕訳入力画面に戻し仕訳を追加し、再度、残高問合せ画面に切替
- ③[F11 発生変更]を押し、該当月をダブルクリック

II. 出力

1) 総勘定元帳

- ・[F7 出力書式]で「摘要（出力欄超過分）」に設定している場合、摘要の文字数等によって2行に渡って同じ摘要が出力される場合があったのを修正しました。

III. 表形式

1) 全般

- ・マルチウィンドウ（並べて表示の右側画面）で、チェックボックスの並びが崩れていたのを修正しました。

修正（社会福祉法人 d b）

I. 登録・入力

1) 資金科目・予算・予備費関係登録

①Excel 出力

- ・Excel 出力したときに、「『』を挿入できませんでした。」のメッセージが表示される場合があったのを修正しました。

※附属明細書でエラーの原因となる処理と同様の処理が入っていたため修正しました。

II. 出力

1) 予算実績対比表

①Excel 出力

- ・Excel 出力したときに、「『』を挿入できませんでした。」のメッセージが表示される場合があったのを修正しました。

※附属明細書でエラーの原因となる処理と同様の処理が入っていたため修正しました。

Ⅲ. 決算

1) 附属明細書

- ・繰入金明細書、貸付金(借入金)明細書の修正番号欄で、Backspace 押下時エラーとなる件を修正しました。
- ・各欄で Esc キーを押したとき、マイナス金額の符号や入力している文字がカットされる場合があったのを修正しました。
- ・ファンクションキー名にマウスポインタを合わせたとき、ポップアップ及びステータスバーに表示される文言を変更しました。
- ・オプションの印刷指定ですべての附属明細書を指定し、国庫補助金特別積立金明細書の画面で Excel 出力した場合、エラーメッセージを表示していたのを修正しました。

番号	科目	区分
1	事業区分間繰入金収益	
2	拠点区分間繰入金収益	
3	サービス区分間繰入金収益	
4	事業区分間繰入金費用	
5	拠点区分間繰入金費用	
6	サービス区分間繰入金費用	

《事業区分間及び拠点区分間貸付金（借入金）残高明細書》

集計科目

明細書 事業区分間及び拠点区分間貸付金（借入金）残高明細書

番号	科目	区分
1	事業区分間貸付	短期
2	拠点区分間貸付	短期
3	サービス区分間貸付金	短期
4	事業区分間長期貸付	長期
5	拠点区分間長期貸付	長期
6	サービス区分間長期貸付金	長期
7	事業区分間借入金	短期
8	拠点区分間借入金	短期
9	サービス区分間借入金	短期
10	事業区分間長期借入金	長期
11	拠点区分間長期借入金	長期
12	サービス区分間長期借入金	長期
13	1年回収事業長貸	長期
14	1年回収拠点長貸	長期

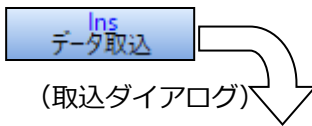
追加[Ins] 削除[Del] 閉じる[End]

番号	科目	区分
1	事業区分間貸付金	短期
2	拠点区分間貸付金	短期
3	サービス区分間貸付金	短期
4	事業区分間長期貸付金	長期
5	拠点区分間長期貸付金	長期
6	サービス区分間長期貸付金	長期
7	事業区分間借入金	短期
8	拠点区分間借入金	短期
9	サービス区分間借入金	短期
10	事業区分間長期借入金	長期
11	拠点区分間長期借入金	長期
12	サービス区分間長期借入金	長期
13	1年以内回収予定事業区分間長期貸付金	長期
14	1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金	長期
15	1年以内返済予定事業区分間長期借入金	長期
16	1年以内返済予定拠点区分間長期借入金	長期

Ⅲ [Ins] データ取込

※「平成 30 年改正」コンバージョン済みで、かつ部門登録があるマスターのみ選択可能です。

(Ins データ取込)



データ取込

総合計部門を 法人全体 として下記の内部取引仕訳を取り込みます。
 ※部門未入力仕訳データは取込対象外です。
 取込するには仕訳入力業務で該当する仕訳に部門を登録してください。

取込対象月 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 決
 31 年 04 月 01 日 ~ 02 年 03 月 31 日 決

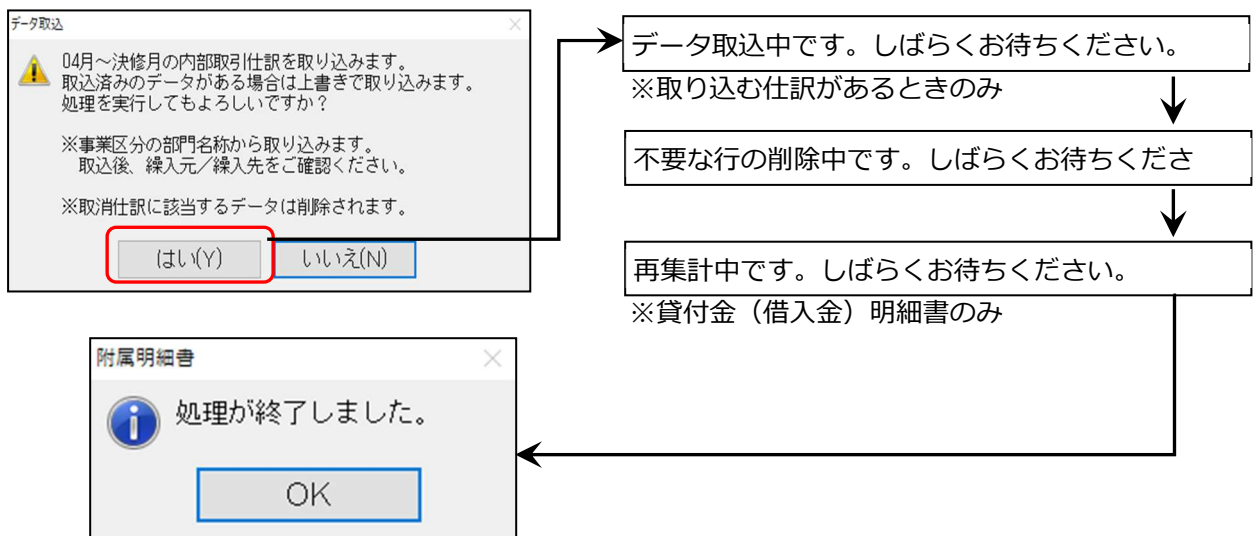
番号	日付	部門	借方	貸方	金額	摘要
8	04.01	0201	当座 預金 5	事業区分繰入益	807,853	201へ401から(事業)
9	04.01	0401	事業区分繰費用	当座 預金 6	807,853	401から201へ(事業)
88	04.01	0201	当座 預金 5	事業区分繰入益	807,853	201へ401から(事業)
89	04.01	0401	事業区分繰費用	当座 預金 6	807,853	401から201へ(事業)
168	04.01	0201	当座 預金 5	事業区分繰入益	807,853	201へ401から(事業)
169	04.01	0401	事業区分繰費用	当座 預金 6	807,853	401から201へ(事業)
248	04.01	0201	当座 預金 5	事業区分繰入益	807,853	201へ401から(事業)
249	04.01	0401	事業区分繰費用	当座 預金 6	807,853	401から201へ(事業)
328	04.01	0201	当座 預金 5	事業区分繰入益	807,853	201へ401から(事業)
329	04.01	0401	事業区分繰費用	当座 預金 6	807,853	401から201へ(事業)

部門を借方、貸方に分けて表示する。 OK[End] キャンセル[Esc]

- * 財務仕訳データから明細書に必要な情報を取り込みます。
- * Ins キーを押すとデータ取込ダイアログが立ち上がり、取込対象となる仕訳をリスト表示します。
- * F9 集計科目の登録科目で内部取引区分を入力している仕訳が取り込みの条件です。
- * ダイアログに表示する仕訳は、入力している内部取引区分で分けられます。例えば「事業区分間繰入金明細書」及び「事業区分間貸付金(借入金)明細書」画面で取り込む場合、内部取引区分が「事業区分間」である仕訳のみ表示します。仕訳を確認後 OK ボタンで明細書画面へ取り込みます。
- * 月指定バーより取込対象月を指定できます(単月/複数月)。指定した月のみ取り込みを行います。
- * 「部門を借方、貸方に分けて表示する。」のチェックボックスは、借方と貸方で部門が異なる場合に確認できる機能です。初期設定は OFF です。

①部門の取込について

- * OK ボタン押下で下記のメッセージを表示します。「はい」で仕訳を取り込み各行へ転送します。
- * 取込データが多い場合を考慮し、取込実行中に処理段階ごとの説明メッセージを出しています。



* 仕訳データのうち、明細書へ取り込むのは下記の項目です。

- ▶ 部門 … 繰入元／繰入先／貸付区分名／借入区分名の各欄へ部門名称を取り込みます。名称の登録がない場合は部門コードを取り込みます。
- ▶ 金額 … 金額欄へ取り込みます。繰入金の順仕訳または貸付金・借入金の仕訳はプラスで、繰入金の逆仕訳または貸付金回収・借入金返済仕訳はマイナスで取り込みます。
- ▶ 摘要 … 使用目的等欄へ取り込みます。

* データ取込処理は明細書画面単位で行います。

* 事業区分間及び拠点区分間貸付金（借入金）残高明細書は、F9 集計科目で設定しているカテゴリ（短期／長期）へ取り込みます。

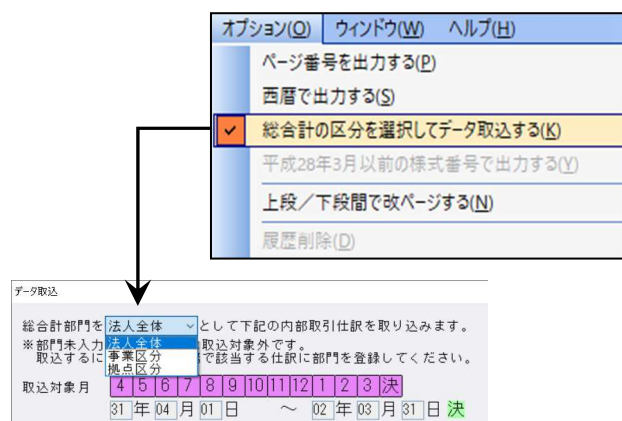
〔総合計部門を基準とする取込について〕

- * 社会福祉法人 d b では部門をユーザーが任意に登録できるがゆえに、会計上の区分とは必ずしも一致しません。よって、“それぞれの明細書にふさわしい部門”をプログラムで自動的に判断することができません。今回、取り込む部門を判定させるために総合計部門を利用することにしました。
- * 取込ダイアログ内に区分選択コンボボックスを設けました。総合計部門を法人全体／事業区分／拠点区分のいずれかに設定することで、取り込まれる部門（階層）が相対的に変わります。
- * 選択はすべての明細書で共通となります。

(コンボボックス)

- ・ 初期値は法人全体で、コンボボックスを固定にしています。

- ・ 区分を切り替える場合は、ツールバー「オプション」の「総合計の区分を選択してデータ取込する」を指定します。



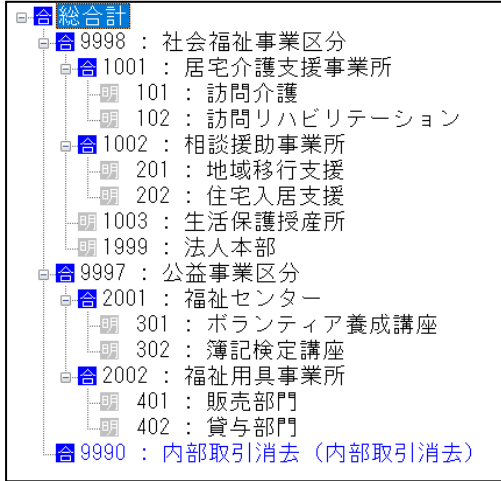
(取込部門)

- 総合計部門を法人全体とする場合
 - ▶ 事業区分間明細書 … 総合計部門より 1 階層下の部門を取り込みます。
 - ▶ 拠点区分間明細書 … 総合計部門より 2 階層下の部門を取り込みます。
 - ▶ サービス区分間明細書 … 総合計部門より 3 階層下の部門を取り込みます。
- 総合計部門を事業区分とする場合
 - ▶ 事業区分間明細書 … 仕訳に登録した明細部門を取り込みます。(※)
 - ▶ 拠点区分間明細書 … 総合計部門より 1 階層下の部門を取り込みます。
 - ▶ サービス区分間明細書 … 総合計部門より 2 階層下の部門を取り込みます。

c. 総合計部門を**拠点区分**とする場合

- ▷事業区分間明細書 … 仕訳に登録した明細部門を取り込みます。(※)
- ▷拠点区分間明細書 … 仕訳に登録した明細部門を取り込みます。(※)
- ▷サービス区分間明細書 … 1階層下の部門を取り込みます。

〔部門階層例〕



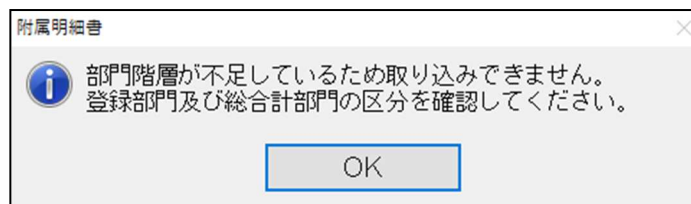
〔総合計部門の区分設定により取り込まれる部門〕

総合計部門の区分	事業区分間明細書	拠点区分間明細書	サービス区分間明細書
法人全体	社会福祉事業区分	居宅介護支援事業所 相談援助事業所 生活保護授産所 法人本部	訪問介護 訪問リハビリテーション 地域移行支援 住宅入居支援
	公益事業区分	福祉センター 福祉用具事業所	ボランティア養成講座 簿記検定講座 販売部門 貸与部門
事業区分	訪問介護 訪問リハビリテーション 地域移行支援 住宅入居支援	社会福祉事業区分	居宅介護支援事業所 相談援助事業所 生活保護授産所 法人本部
	ボランティア養成講座 簿記検定講座 販売部門 貸与部門	公益事業区分	福祉センター 福祉用具事業所
拠点区分	訪問介護 訪問リハビリテーション 地域移行支援 住宅入居支援	訪問介護 訪問リハビリテーション 地域移行支援 住宅入居支援	社会福祉事業区分
	ボランティア養成講座 簿記検定講座 販売部門 貸与部門	ボランティア養成講座 簿記検定講座 販売部門 貸与部門	公益事業区分

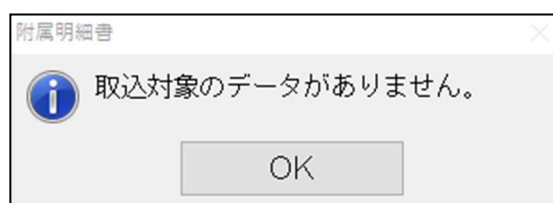
※総合計部門を事業区分とみなす場合の事業区分間明細書への取込や、拠点区分とみなす場合の事業区分間明細書、拠点区分間明細書への取込については、取り込む部門を判断できないため、便宜上仕訳に登録した明細部門の名称を取り込みます（表の赤枠以外は、使用が想定されない部門です）。

※サービス区分より下の階層（総合計部門を除き4階層目以下）の部門を入力した仕訳は、明細書に関わらず明細部門の名称を取り込みます。

※部門設定業務で登録した部門階層が、明細書への取込に必要な階層より少ない場合、メッセージを出して処理を中断します（総合計部門以下が1階層しかないのにサービス区分間明細書を「総合計部門：法人全体」で取り込む場合など）。

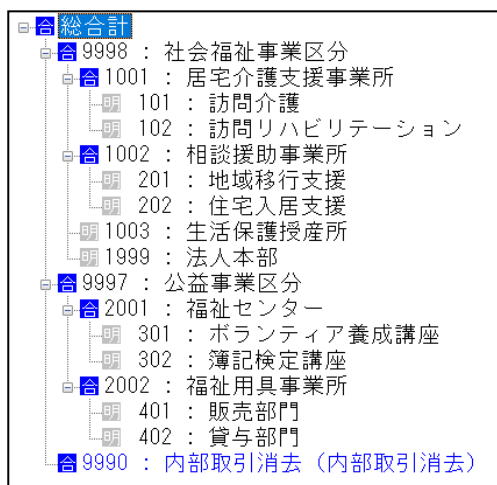


※部門の登録が1件もない場合、Ins キーを押下の際に下記のメッセージで中断します。



②仕訳の取込形態について

- * 内部取引は渡す側と渡される側（繰入元と繰入先、貸付元と借入先、返済元と回収先）でひとつの取引を形成します。仕訳入力では元と先がそれぞれ単一ならば、支払と受入の2仕訳を起こしますが、それ以外の入力パターンも想定し、明細書へ取り込めるようにしています。
- * 1仕訳につきデータ1行が基本の取込形態ですが、2行となる場合もあります。下記の仕訳例をご参照ください。



例. 総合計部門を法人全体とする場合

a. 対象科目が借方、貸方のいずれかに存在する仕訳

【仕訳入力】

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事	101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事	301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

- ▷上段の仕訳は対象科目が借方のため、「貸付事業区分名」欄へ「0101 訪問介護」が属する事業区分名《社会福祉事業区分》を、「金額」欄へ**プラス金額**をセットします。
- ▷下段の仕訳は対象科目が貸方のため、「借入事業区分名」欄へ「0301 ボランティア養成講座」が属する事業区分名《公益事業区分》を、「金額」欄へ**プラス金額**をセットします。

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
2	短期		公益事業区分	17,733,300	301へ101から(事業)

b. 対象科目が借方、貸方のいずれにも存在し、かつ部門が同一である仕訳

(1) 科目の貸借属性と同じ側に入力している場合

【仕訳入力】

0301	拠点区分繰費用	拠点区分繰入益	811,856		拠	拠点区分間取引
------	---------	---------	---------	--	---	---------

【拠点区分間繰入金明細書】

- ▷対象科目が借方・貸方の両方にある場合は、1仕訳につき2行で取り込みます。
- ▷借方・貸方の両方に同一部門が掛かっていますので、「繰入元」欄及び「繰入先」欄へ「0301 ボランティア養成講座」が属する拠点区分名《福祉センター》を、「金額」欄へ**プラス金額**をセットします。

番号	繰入元	繰入先	繰入金財源	金額	使用目的等
1	福祉センター			811,856	拠点区分間取引
2		福祉センター		811,856	拠点区分間取引

(2) 科目の貸借属性とは異なる側に入力している場合

【仕訳入力】

0201	1年回収抛長貸	拠点区分長貸付	150,000		拠	次年度回収予定分
0102	拠点区分長借入	1年返済抛借入	150,000		拠	次年度返済予定分

【拠点区分間貸付金（借入金）明細書】

- ▷対象科目が借方・貸方の両方にありますので、1仕訳につき2行で取り込みます。
- ▷上段の仕訳では、“1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金”及び“拠点区分間長期貸付金”の2行分を取り込みます。いずれも「貸付拠点区分名」欄へ「0201 地域移行支援」が属する拠点区分名《相談援助事業所》をセットします。「金額」欄へは科目の貸借属性を参照し、正負いずれかの金額をセットします。この場合両科目とも借方属性ですので、「1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金」は**プラス金額**、「拠点区分間長期貸付金」は**マイナス金額**をセットします。
- ▷下段の仕訳も同様、“拠点区分間長期借入金”及び“1年以内返済予定拠点区分間長期借入金”の2行分を取り込みます。いずれの行も「借入拠点区分名」欄へ「0102 訪問リハビリテーション」が属する拠点区分名《居宅介護支援事業所》をセットします。「金額」欄へは両科目とも貸方属性ですので、“拠点区分間長期借入金”は**マイナス金額**、“1年以内返済予定拠点区分間長期借入金”は**プラス金額**をセットします。

番号	短期/長期	貸付拠点区分名	借入拠点区分名	金額	使用目的等
1	短期				
	短期 小計			0	
2	長期	相談援助事業所		150,000	次年度回収予定分
3	長期	相談援助事業所		-150,000	次年度回収予定分
4	長期		居宅介護支援事業所	-150,000	次年度返済予定分
5	長期		居宅介護支援事業所	150,000	次年度返済予定分
	長期 小計			0	

c. 対象科目が借方、貸方のいずれにも存在し、部門が相違する仕訳
【仕訳入力】

借方部門：	0402	貸方部門：	0401		
****	サ区分繰入費用	サ区分繰入収益	81,385		サ サービス区分間取引 (402から401へ)

【サービス区分間繰入金明細書】

- ▷対象科目が借方・貸方の両方にありますので、1仕訳につき2行で取り込みます。
- ▷サービス区分間明細書ではサービス区分が属する拠点区分となる部門ごとにサービス区分間の仕訳データを取り込みます。仕訳例では拠点区分となる部門「2002 福祉用具事業所」へ“サービス区分間繰入金費用”及び“サービス区分間繰入金収益”の2行分を取り込みます。
- “サービス区分間繰入金費用”の行は、「繰入元」欄へサービス区分名《貸与部門》を、「金額」欄へ**プラス金額**を、“サービス区分間繰入金収益”の行は「繰入先」欄へサービス区分名《販売部門》を「金額」欄へ**プラス金額**をセットします。

番号	繰入元	繰入先	繰入金の財源	金額	使用目的等
1	貸与部門			81,385	サービス区分間取引 (402から401へ)
2		販売部門		81,385	サービス区分間取引 (402から401へ)

* 総合計部門を事業区分や拠点区分とする場合も、①のしくみに則り、各明細書へ該当データを取り込みます。

③取込済み仕訳データの再取込について

- * データ取込後に再度取り込む場合、仕訳入力で変更があれば上書きまたは追加となります。
- * 取込済みのデータを仕訳入力上で削除した場合、そのデータは再取込時に削除されます。
- * 以下、事業区分間貸付金（借入金）明細書で説明を行います。

a. 前回取込と今回取込で仕訳数に増減がない場合

《前回》

【仕訳入力】

▷仕訳を2件登録しています。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事 301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷仕訳 2 件分の取り込みを行いました。（番号 1・2）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
*1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
*2	短期		公益事業区分	17,733,300	301へ101から(事業)

《今 回》

【仕訳入力】

▷上段仕訳の摘要を変更し、下段仕訳の金額と摘要を変更しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から別部門へ(事業)
0301	事業区分間貸付	当座 預金 2	1,773,330		事 301から別部門へ(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷取込を行うと変更した内容で上書きされます。（番号 1・2）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
*1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から別部門へ(事業)
*2	短期	公益事業区分		1,773,330	301から別部門へ(事業)

b. 前回取込から仕訳数が増えた場合

《前 回》

【仕訳入力】

▷仕訳を 2 件登録しています。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事 301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷仕訳 2 件分の取り込みを行いました。（番号 1・2）

▷手入力データを 1 件追加しました。（番号 3）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
*1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
*2	短期		公益事業区分	17,733,300	301へ101から(事業)
3	短期	公益事業区分	社会福祉事業区分	5,000,000	【手入力データ】

《今 回》

【仕訳入力】

▷仕訳を 1 件追加しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事 301へ101から(事業)
0102	事業区分間貸付	普通 預金 3	177,000		事 102から302へ(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷既存仕訳は取込を行わないため変更されません。（番号 1・2）

▷追加仕訳は行挿入した番号 3 の次へ追加されます。（番号 4）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
*1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
*2	短期		公益事業区分	17,733,300	301へ101から(事業)
3	短期	公益事業区分	社会福祉事業区分	5,000,000	【手入力データ】
*4	短期	社会福祉事業区分		177,000	102から302へ(事業)

c. 既存仕訳を1取引1行に変更し、かつ短期/長期区分が同じ場合

《前回》

【仕訳入力】

▷仕訳を2件登録しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事	101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事	301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金(借入金)明細書】

▷仕訳2件分の取り込みを行いました。(番号1・2)

▷手入力データを2件追加しました。(番号3・4)

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
x1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
x2	短期		公益事業区分	17,733,300	301へ101から(事業)
3	短期	公益事業区分		100,000	【手入力データ:番号3】
4	短期		社会福祉事業区分	100,000	【手入力データ:番号4】

《今回》

【仕訳入力】

▷上段仕訳は変更がありません。

▷下段仕訳は借方、貸方とも対象科目に変更しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事	101から301へ(事業)
0301	事業区分間貸付	事業区分間借入	17,733,300		事	301(事業) 1取引1行に変更

【事業区分間貸付金(借入金)明細書】

▷上段仕訳は取込を行わないため変更されません。(番号1)

▷下段仕訳は2行で取り込まれます。(番号2・3)

番号2は借方科目分が**上書き**され、番号3は貸方科目分が**追加**されます。

▷手入力データは再付番されます。(番号4・5)

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
x1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
x2	短期		公益事業区分	17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更
x3	短期	公益事業区分		17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更
4	短期	公益事業区分		100,000	【手入力データ:番号3】
5	短期		社会福祉事業区分	100,000	【手入力データ:番号4】

d. 既存仕訳を1取引1行に変更し、かつ短期/長期区分が異なる場合

《前回》

* 変更後のcをベースに説明を行います。

【仕訳入力】《前回》

▷仕訳を2件登録しています。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事	101から301へ(事業)
0301	事業区分間貸付	事業区分間借入	17,733,300		事	301(事業) 1取引1行に変更

【事業区分間貸付金(借入金)明細書】《前回》

▷仕訳2件分の取り込みを行っています。(番号1・2)

▷短期に2件の手入力データがあります。(番号3・4)

長期に2件のデータを手入力しました。(番号5・6)

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
x1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
x2	短期	公益事業区分		17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更
x3	短期		公益事業区分	17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更
4	短期	公益事業区分		100,000	【手入力データ：番号3】
5	短期		社会福祉事業区分	100,000	【手入力データ：番号4】
短期 小計				53,399,900	
6	長期	社会福祉事業区分		200,000	【手入力データ：番号6】
7	長期		公益事業区分	200,000	【手入力データ：番号7】
長期 小計				400,000	
合計				53,799,900	

《今回》

【仕訳入力】

▷上段仕訳は変更がありません。

▷下段仕訳は借方、貸方とも短期/長期区分が異なる対象科目に変更しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	事業区分長貸付	事業区分長借入	17,733,300		事 301(事業) 1取引1行に変更 短期から長期へ変更

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷上段仕訳は取込を行わないため変更されません。（番号1）

▷下段仕訳は取込済みの短期データを2行削除し、長期データを2行、手入力データの下へ追加します。（番号6・7）

▷手入力データは再付番されます。（番号2・3・4・5）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
x1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
2	短期	公益事業区分		100,000	【手入力データ：番号3】
3	短期		社会福祉事業区分	100,000	【手入力データ：番号4】
短期 小計				17,933,300	
4	長期	社会福祉事業区分		200,000	【手入力データ：番号6】
5	長期		公益事業区分	200,000	【手入力データ：番号7】
x6	長期	公益事業区分		17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更 短期から長期へ変更
x7	長期		公益事業区分	17,733,300	301(事業) 1取引1行に変更 短期から長期へ変更
長期 小計				35,466,600	
合計				53,799,900	

e. 取込データ数が減る場合

《前回》

【仕訳入力】

▷仕訳を2件登録しています。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事 301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷仕訳2件分の取り込みを行っています。（番号1・2）

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
1	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
2	短期		公益事業区分	17,733,300	301から101へ(事業)
短期 小計				35,466,600	

《今回》

【仕訳入力】

▷仕訳を1件削除しました。

0101	事業区分間貸付	当座 預金 1	17,733,300		事 101から301へ(事業)
0301	当座 預金 2	事業区分間借入	17,733,300		事 301へ101から(事業)

【事業区分間貸付金（借入金）明細書】

▷前回取込行は削除されます。

番号	短期/長期	貸付事業区分名	借入事業区分名	金額	使用目的等
41	短期	社会福祉事業区分		17,733,300	101から301へ(事業)
	短期	小計		17,733,300	

- * 取込データには番号欄にアスタリスクが付きます。一方、帳票内で入力したデータには付きません。
- * 新規取込時は最終データ行（短長区分がある場合は区分内の最終行）の下へ追加され、再取込時は同一行へ上書きされます。またc・dのように、1仕訳1行から2行で取り込まれるように変更した場合は、もとの行の下へ挿入して取り込みます。ただし、仕訳入力で内部取引区分の訂正や取消仕訳の復帰を行った場合は、新規の取込データとして扱います。
- * 行の入替や挿入によりデータの番号が変わった場合も、再取込時には前回取り込んだデータへ上書きされます。また仕訳入力側で行移動を行った場合も同様です。
- * 貸付金（借入金）明細書で例示しましたが、繰入金明細書においても同様の動きとなります。

IV 部門選択ダイアログ

* 区分名欄フォーカス時やF6部門選択押下時に表示するダイアログにおいて、明細・合計部門にかかわらず並列形式だったのを、ツリー形式に変更し選択しやすいようにしました。

- ・ 総合計部門以外の部門を指定することができます。
- ・ 仕訳に使用しない内部取引消去部門は非表示としています。

(現行)

(改良)

* 部門名称がない部門を選択したとき、空白となっていたのを部門コードを表示するようにしました。

番号	繰入元	繰入先	繰入金の財源	金額	使用目的等
1	地域移行支援		0101部門 介護保険収益	180,000	0202部門 固定資産購入に充当
2		[0202]	0101部門 介護保険収益	180,000	0202部門 固定資産購入に充当

V サービス区分間明細書の画面表示

* サービス区分間繰入金明細書及びサービス区分間貸付金（借入金）明細書は、拠点区分ごとの帳票出力ですので、部門選択コンボボックスには拠点区分となる部門のみ表示するようにしました。

- ・ 既存マスターを対応プログラムで起動直後は従来どおりすべての部門を表示しますが、データ取込処理を通すと拠点区分となる部門のみ表示します。
- ・ コンボボックス内の拠点区分は総合計部門の設定で相対的に変わります（iiiの※①参照）。

* 部門選択コンボボックスの隣に表示していた、出力部門パターン設定コンボボックスを削除しました。

- ・ サービス区分間繰入金明細書及びサービス区分間貸付金（借入金）明細書では、画面表示する部門と出力する部門が別指定となっていました。ユーザーが直感的に操作しにくいことや仕訳データ取込の対応でさらに操作に混乱をきたすことを懸念し、部門の選択は画面表示用のみとし、データがある部門をすべて出力対象とするように変更しました。
- ・ 特定の部門の出力は印刷ダイアログのページ指定により可能です。

③)サービス区分間繰入金明細書					
[2002] 福祉用具事業所					
番号	繰入元	繰入先	繰入金の財源	金額	使用目的等
1 貸与部門				81 385 サービス区分間取引 (402から401へ)	

VI 翌期更新

* 明細書データの更新について

- ・ 繰入金明細書のデータはクリアされます。
- ・ 貸付金（借入金）明細書のデータは、取込、手入力データに関係なく前期分を残しています。また、当期データと区別させるため前期データ行にはオレンジの背景色が付きます。必要に応じて行の削除や入れ替え等して加工を行ってください。
- ・ 前年度からの更新は行いません。

<改良補足>

(データ取込)

- * 部門設定業務で内部取引消去部門を登録していなくてもデータ取込は行えます。ただし、他帳票との集計を整合させるために登録は必要です。
- * Ins データ取込キーが有効となるのは、“30年改正以降の部門有りマスター”のみです。
- * 内部取引区分未入力の仕訳、部門未入力の仕訳、部門配賦時の配賦元合計部門を入力している仕訳は、ダイアログに表示せず取込も行いません。
- * 法人単位で内部取引消去処理を行っている場合の取り込みには対応していません。
- * 先に述べたように、取込済みの仕訳の再取込は上書きですので、仕訳を削除した場合は明細書へ取り込まれているデータも削除されます。ただし、削除は指定月ごとに行われます。例えば5月と6月に仕訳の削除が行われている状態で6月のみ指定して仕訳を取り込んだ場合、6月の該当データは削除されますが5月の該当データは削除されません。
- * データ取込はダイアログに表示されている仕訳の並びで取り込まれ、都度、次行へ追加されるしくみです。例えば1年分の仕訳を取込後に仕訳入力上で或る月の不足仕訳を追加しても、最終データ行の次へ追加していきます。したがって、データの並びを月ごとに管理している場合は、1行上へ/1行下への機能を用いていただきますようお願いいたします。
- * 実際の法人のHPに掲載されている財務情報等を参照すると、1取引につき1行と2行の両方の記載が見受けられます。当プログラムでは1取引1行となる取込には対応しません。取込後は場合により不要な行を削除するなど、データを加工してお使いいただきますようお願いいたします。
- * 取込行（アスタリスク行）については、行が削除されて画面からなくなるまで取込行と判定されません。各項目の内容を全部クリアしても手入力行に変わるわけではありませんので、当業務でデータを追加する場合は別途登録してください。

<修正>

- ・繰入金明細書、貸付金(借入金)明細書の修正番号欄で、Backspace 押下時エラーとなる件を修正しました。
- ・一括印刷・電子帳票作成業務でサービス区分間明細書が出力されなかったのを修正しました。
- ・一括印刷・電子帳票作成業務でデータなしの帳票を出力時、「データがありません。」のメッセージで処理が途中で止まっていたのを修正しました。
- ・各欄で Esc キーを押したとき、マイナス金額の符号や入力している文字がカットされる場合があったのを修正しました。
- ・ファンクションキー名にマウスポインタを合わせたとき、ポップアップ及びステータスバーに表示される文言を変更しました。
- ・オプションの印刷指定ですべての附属明細書を指定し、国庫補助金特別積立金明細書の画面で Excel 出力した場合、エラーメッセージを表示していたのを修正しました。

以上